

yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No. 77
平成 19 年 11 月 8 日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

保存場所

子どもの作品を「保存」する場合、保存場所の作り方には二つあります。

一つは、個人個人に入れ物(フォルダ)を作る場合。もう一つは、作品ごとに入れ物を作る場合です。

個人ごとに作って、自分の作品の入れ物を次の学年にも使うと、卒業時には、作ったものをまとめて持ち帰ることが楽にできます。また、以前に作ったものを呼び出して修正したり付け加えたりすることも簡単にできます。

しかし、うっかり前の作品を作り替えてしまったり削除してしまうと、元に戻すのがたいへんです。()自分でしっかり管理していないと、ファイル名をきちんとつけなかったり(無題、とか、文書1のままで保存してしまう、など)、たくさんのファイルをフォルダに分類しておくなどの整理ができていないと、何でも放り込むおもちゃ箱のようになってしまいます。

作品ごとに、クラス全員がちゃんと保存できたかどうかの確認もしづらいです。()

また、個人フォルダの入れ物がクラス別になっていると、学年が上がるごとにクラス替えに従って分類し直さなくてはなりません。(年度更新処理、と言います)

定期的にバックアップを採っておけば、そこから復元することはできます。

パソコン室ネットワークを補助する管理ソフトを上手に使えると、各自の保存についてチェックすることはある程度可能です。

一方、作品ごとに入れ物を用意して、作品のファイル名を個人名にすれば、1人1人がちゃんと保存できたかの確認がしやすく、全員の作品をチェックしやすくなります。評価、とまで行かなくても、作品の進捗状況がわかりやすいです。別の人のファイルを誤って開いてしまう心配も少なくなります。

しかし、こうすると、個人の作品を1カ所に集めるのは手間がかかります。こういう必要がなければ、作品ごとの分類の方が授業などではやりやすいと考え、今はこの方法を採用しています。

パソコン室の生徒機からは、クラスのフォルダのあるいくつかの場所(ネットワークドライブ)が見えます。

「作る」「クラス」「イントラバケツ」などですが、実際は、全て「作る」の中にあります。「作る」は、生徒機からフルアクセス(見たり更新したりができる)です。「作る」は、定期的にバックアップを心がけています。バックアップ容量から言っても、ここには生徒作品以外のもの(写真データなど)は保存しないようお願いしています。